# 録

#### I. 🖯 程

1978年

11月16日(木)

参加者登録 (受付)

10:00~10:30

開会 (大会議室)

 $10:30\sim10:50$ 

開会あいさつ

市 古 貞 次(国文学研究資料館長)

研究発表

 $10:50\sim11:50$ 

座長: 臼 田 甚五郎 (国学院大学教授)

上代日本文学の時間論的研究・序説

粂 川 光 樹 (フェリス女学院大学教授)

古代信仰から見た万葉集の羇旅歌

ヘルベルト・プルチョウ

(カリフォルニア大学バークレ助教授)

展示「幕末維新の文学」・国文学研究資料館利用案内 11:50~12:20

解説:本 田 康 雄(国文学研究資料館教授)

研究発表

13:30~15:00

座長:福 田 秀 一(国文学研究資料館教授)

日本文学と風土 長 谷 章 久 (埼玉大学教授)

新古今時代における玉葉・風雅歌風の前兆

――建礼門院右京大夫を中心として――

フィリップ・ハリス (スタンフォード大学助教授)

竹園抄とその前後 リューベン・ゲーリング (上智大学大学院生)

休けい 15:00~15:30 研究発表

15:30~16:30

座長:池 田 重(千葉大学教授)

近松淨瑠璃と音楽の節付

アンドリュー・ガーストル (ハーバード大学大学院生)

高村光太郎におけるアメリカ

潟 沼 誠 二 (北海道教育大学助教授)

レセプション (ホール)

17:00~18:30

||月||7日 (金)

シンポジウム

13:30~17:00

「19世紀における日本文学――近世から近代へ――」

司会:長谷川 泉(学習院大学講師)

講師:前 田 愛(立教大学教授)

〃 ドナルド・キーン (コロンビア大学教授)

" アンドレ・デルティユ

(パリ第三大学大学院生)

### 2. 研究集会の経過

前回(第1回)の国際日本文学研究集会は、1977年、11月、「国際日本文学研究集会組織委員会」の主催のもとに、日本学術振興会の援助を受けて、国文学研究資料館で実施されたが、今回(第2回)からは、国文学研究資料館の主催で開かれることになり、同館に国際日本文学研究集会委員会が設けられ、館長の諮問に応じて研究集会の企画と組織に当った。

研究集会の主な経過は次のとおりである。

第1日・11月16日(木)

### (1) 参加者登録

午前10時から国文学研究資料館1階ホールにおいて、参加者登録および受付を行った。参加者は109名(翌日登録者を含む)うち45名が海外からの参加者であった。

## (2) 開 会

午前11時30分、国文学研究資料館1階大会議室で、古川清彦国文学研究資料館教授の司会で開会が行われ、市古貞次国文学研究資料館長のあいさつが行われた。

# (3) 研究発表

前回は最初の試みであったので研究発表の応募者は必ずしも多くなかったが、 今回は、応募も増したので、発表数を5課題から7課題に増し、他の既存の 専門分野の学会と異る、国際研究集会にふさわしい特色のある課題が選ばれ、 発表されることになった。

(i) 午前のセッションは、臼田甚五郎氏(国学院大学教授)の司会のもとに上代に関する二つの研究発表が行われた。粂川光樹氏(フェリス女学院大学教授)は上代文学の時間論的研究を、研究史に触れつつ展開し、ヘルベルト・

プルチョウ氏 (カリフォルニア大学バークレ助教授) は、羈旅歌について、コスモス (ニギ) とカオス (アラ) の宗教的空間論との関係を発表され、海外からの参加者を含む質問も活発で、昨年にくらべ一段と国際研究集会らしい雰囲気がつくり出された。

- (ii) 午後のセッションは、福田秀一氏(国文学研究資料館教授)の司会のもとに、日本文学に特徴的な、風土の問題と、歌風、歌論に関係する発表が行われた。建礼門院右京大夫を中心とするフィリップ・ハリス氏(スタンフォード大学助教授)の発表、竹園抄とその前後についてのリューベン・ゲーリング氏(上智大学大学院生)の発表については日本のそれぞれの研究者からの質問やコメントがあり、海外の研究者と、日本の研究者が共通の場で意見を交換する目的も着実に密度が高められたと考えられる。
- (ii) 30分のティーブレークをはさんで15時45分から行なわれたセッションでは、池田重氏(千葉大学教授)の司会のもとに、アンドリュー・ガーストル氏(ハーバード大学大学院生)が浄瑠璃の音楽と節付けについて、実際にカセット・テープを流して発表を行い、潟沼誠二氏(北海道教育大学助教授)は高村光太郎のアメリカ体験について英字新聞の資料を配布し外国資料を駆使して説明されるなど、多彩な発表が行われた。

# (4) 展示説明·国文学研究資料館利用案内

午前の研究発表と、午後の研究発表の中間を利用して、翌日のシンポジウム「19世紀における日本文学――近世から近代へ――」と関連して、国文学研究資料館2階展示室で同時に開催されている展示、「幕末維新の文学」(54点)についての説明、および国文学研究資料館の資料の利用について、本田康雄参考室長(国文学研究資料館教授)から説明が行われた。

# (5) レセプション

午後5時から、2階ホールで、国文学研究資料館主催のレセプションが行

なわれた。井本農一国際日本文学研究集会委員長のあいさつ乾盃の後、海外からの参加者を代表してダグラス・ミルズ国文学研究資料館客員教授の感謝のことばがあり、6時30分まで、在日中の海外の研究者と日本の研究者が一堂に会しうちとけた雰囲気のもとで懇談が行なわれた。

第2日、11月17日(金)

シンポジウム

午後1時30分から、長谷川泉氏(学習院大学講師)の司会のもとに、シンポジウム、「19世紀における日本文学――近世から近代へ――」が、前田愛(立教大学教授)、ドナルド・キーン(コロンビア大学教授)、 アンドレ・デルティユ (パリ第三大学大学院生) の 3 氏を講師として行なわれた。

日本文学を19世紀という視野で把える試みは、おそらく初めてのことであろうと考えられ、今回から行なわれることになった国際研究集会のシンポジウムに、ふさわしいテーマであると考えられる。

最初司会の長谷川泉氏から、a) 近代文学の起点の内面的構造、b) 文学理論の巨視的体系と作品の微視的評価、c) 西欧的近代に対する反近代ないし近代の超克、という、19世紀における日本の文学的近代を見る視点が提起され、つづいて、前田愛氏から小説神髄の模写理論における視覚革命について、D. キーン氏から河竹黙阿弥の戯曲の当時の世界文学における評価について、A. デルティユ氏から幸田露伴の作品が伝統も、近代も超えるものを含んでいるということについて、それぞれ発表があった。大きな問題であったためか、かなり予定の時間を超過したので、10分の休けいをとり、その後各講師から補促のコメントがあり、討論に移った。時間は約1時間オーバーしてしまったが、最後までフロアーからの意見も含めて活発な意見の交換が行なわれた。

\* \* \*

なお今回も参加者に、本研究集会に関する意見を求めたが、有意義であり、 ぜひ続けるようにという趣旨の意見のほか、時間にもう少しゆとりがほしい。 資料は前もって配布してほしい等の希望があった。また開催時期は11月でよ いというものが、回答のほとんどであった。

#### 参 加 者 名 潼

車 攻 氏 名 現職名あるいは所属機関 阿 部 好 臣 国文学研究資料館助手 中 古文 学 秋 間 俊 夫 オークランド大学講師 日本古代文学 平 安 文 学 ARMOUR, Andrew J. L. 慶応義塾大学研究生 中世文学と和歌 浅 野 春 江 外交官 現 代 文 学 BAROVA. Dora 本 文. 学 BEICHMAN, Janine 上智大学国際部大学院講師  $\mathbf{H}$ 中世歴史と民俗学 BLUMMEL, Maria-Verena 東京大学研究生 RUNDY, Roselee シカゴ大学大学院生・筑波 大学研究生 CARTER, Steven D. カルフォルニア大学・バー 世 クレー大学院生・東海大学 (連 研究生 台湾大学講師 芭 陳 明 玉 蕉 崔 在詰 韓国外国語大学助教授・東 比 文 学 較 京大学大学院研究生 鄭 漠 模 ソウル大学教授・東京大学 近 代 文 学 客員研究員 ハワイ大学大学院生・早稲 学 ## COGAN, J. Thomas 中 文 田大学研究生 代 DELTEIL. André パリ第三大学大学院生・早 近 (幸田 露伴) 稻田大学研究員 モスクワ大学学部生・東海 日本文学一般 EREMINA, Olga 大研究生 FOWLER. Edward カルフォルニア大学バーク 近 代 文 学 レー大学院生 ## 学 国文学研究資料館教授 中 文 福田秀一 代 文 国文学研究資料館教授 沂 学 古川清彦 GERLING, Reuben 上智大学大学院生 中世文学(和歌史) GERSTLE, C. Andrew ハーバード大学大学院生 近世文学(淨瑠璃) GOFF, Janet ミシガン大学大学院生・東 謡曲における 京大学研究生 源 氏 物 語 HARE. Thomas 東京芸術大学 能 謡 #H HARRIES, Phillip T. スタンフォード大学助教授・ 文 学 和 歌 東京大学客員研究員 風土文芸学・日本 文学 史

埼玉大学教授

学習院大学講師

近代文学・評論史

長谷章

長谷川

久

泉

林 勉 HEINRICH, Amy, Vladeck HERBERT, A. Kathryn HOFF, Frank 本 田 康 雄 HUNZIKER, Franziska 市古貞次 ICIMOTO, Luiza Nana 伊 井 春 樹 池田 重 閣 敏 子 農 # 本 正 稲 冨 彦 石 塚 英 弘 渞 子 石 塚 邦 生 位. 藤 下 彦 岩 武 鋌 治 光 雄 本 箾 金 子 誠二 潟 沼 KEENE. Dennis KEENE, Donald 小 山 一 成 用 淑 金 岸  $\mathbf{H}$ 依 7 I 藤 等 雅 工 藤 世 KUDRIAVTSEVA, Jrina 粂 川 光 樹 京 野 知克子

学 東京学芸大学教授 上 代 文 コロンビア大学大学院生・ 近 文 東京大学研究生 中 古 文 学 (宇津保物語) オークランド大学大学院生・ 日本女子大学大学院生 日本芸能史 文 国文学研究資料館教授 沂 世 学 本 文 学 お茶の水女子大学  $\exists$ 国文学研究資料館館長 中 ## 文 学 世説話 お茶の水女子大学研究生 中 集 文 学 国文学研究資料館助教授 中 古 ## Ţ. 学 千葉大学教授 中 お茶の水女子大学院生 中古・中世文学 (女流日記) 文 聖心女子大学教授 沂 世 学 オスロ大学東アジア研究所 現 代 文 学 助教授 国文学研究資料館助教授 情 報 科 学 お茶の水女子大学大学院生 能 狂 言 文 学 広島大学講師 中 世 名古屋学院大学講師 上代文学(万葉集) 東海大学大学院生 中世文学(連 歌) 中世 広島大学助手 申 世 文 学 (新 古 今 集) 北海道教育大学助教授 近世・近代文学 日本女子大学教授 代 文 沂 学 コロンビア大学教授 近世·近代文学 立正大学助教授 近 世 文 学 淑明女子大学校教授・東京 外国語大学客員教授 中世文学 (李朝) 早稲田大学大学院生 中世文学 (連歌) 青森県立鰺ケ沢高等学校教諭 日本文学 · 民俗学 青森県立鰺ケ沢高等学校教諭 Ε. 代 文 学 モスクワ大学学部生・東海 H 本 歴 史 大学研究生 フェリス女学院大学教授 上代 文 学 近世文学(西鶴) 広島女学院大学学部生

LINDBERG, Gunilla	ストックホルム大学大学院生			文 口歌	
前 田 愛	立教大学教授	近世	• 近	f代文	(学
MATSON, Gary	ブリテッシュコロンビア大学 大学院生・広島大学研究生	近 (川	代端	文 康 瓦	
松崎仁	立教大学教授	近	世	演	劇
松田修	国文学研究資料館教授	近	世	文	学
MILLS, Douglas	ケンブリッヂ大学教授・国 文学研究資料館客員教授	中	世	文	学
MORLEY, Garol	コロンビア大学大学院生・ 東京大学研究生	狂			言
宗 政 五十緒	龍谷大学教授	近	世	文	学
永 野 英 二	明治学院大学学部生				
内 藤 衛 亮	国文学研究資料館助手	図書	<b>퇔館</b>	情報	学
中 川 成 美	立教大学大学院生	現	代	文	学
中 村 哲 郎	演劇評論家	日	本	演	劇
野 田 壽 雄	青山学院大学教授	近	世	文	学
O'BRIEN, Maureen	ノートルダム清心女子大学 助教授	比	較	文	学
岡 雅彦	国文学研究資料館助教授	近	世	文	学
岡 田 彰 子	聖心女子大学大学院生	俳	7	て	学
大久保 正	国文学研究資料館教授	上代	<b>₹・</b> ₺	立世文	て学
奥 出 健	国文学研究資料館助手	近	代	文	学
OTSUKI, Maria, Harumi	筑波大学研究生	日	本	語	学
PLUTSCHOW, Herbert	カルフォルニア大学助教授	日本日	文学本 为	学一般	せ 史
ROYALL, Tyler	オハイオ州立大学生				
RUTLEDGE, Eric	カルフォルニア大学バー クレー大学院生・名古屋大学 研究生	中世フラ	文学 ンス0	(日z D語り	本と <b>物</b> )
雑 賀 美 枝	ノートルダム清心女子大学 教授	和 (中	歌古	文 • 中t	学 世)
斉 藤 明	アメリカ・カナダ十―大学 連合・日本研究センター	近	代	文	学
坂 野 信 彦	中京大学助教授	文	学	理	論
斉 藤 翠	上智大学大学院	日	本	文	学
坂 田 新	早稲田大学講師	中	玉	文	学
佐々木 三枝子	青山学院大学学部生	近	代	文	学
佐々木 充	千葉大学助教授	日	本	文	学

佐 波 悠 紀	京都精華短期大学講師	近 世 文 学 (蕪村・芭蕉)			
SCHOENBERGER, L. Karl	京都大学研修員	日 本 文 学 近代・現代			
芝 尾 仁	日本大学大学院生	中 世 文 学			
下瀬川 慧子	東海大学教授	日 本 語			
白 井 忠 功	立正大学教授	中 世 文 学			
SOLT, John, Peter	上智大学大学院生	源 氏 物 語			
蘇徳昌	上海復旦大学助教授・東京 外国語大学客員研究員	日本文法論戦後日本文学			
田 形 伴 子	嘉悦学園講師	近 代 文 学			
田嶋一夫	国文学研究資料館助教授	中 世 文 学			
高 木 きよ子	アメリカ・カナダ十一大学 連合日本研究センター副所 長	宗 教 学			
鷹津義彦	立命館大学教授	日本文学史			
TAKEMOTO, Akira, R.	スタンフォード大学大学 院生・龍谷大学仏教文化研 究所客員研究員	中世仏教説話文学			
龍 田 肇	千葉県保育専門学院講師	近 代 文 学			
ULMER, Robert	エール大学大学院生・法政 大学客員研究員	近 代 文 学 (梶井基次郎)			
臼 田 甚五郎	国学院大学教授	口承文芸学			
宇津野 登久子	上智大学講師	上代語・文学			
WONG, Daniel	上智大学大学院生	日 本 文 学			
王 淑 英	東海大学大学院生	中 世 文 学 (新古今時代の和歌)			
山 田 昭 全	大正大学教授	中世文学と仏教 と の 交 渉			
山 口 昌 男	東京外国語大学教授	文 化 人 類 学 及 び 日 本 文 化 史			
山 中 光 一	国文学研究資料館助教授	情報管理			
山 下 宏 明	名古屋大学助教授	中世語り物文芸			
YASUHARA, Eri F.	カルフォルニア大学・ロサ ンゼルス大学院生・東京大 学防研究生	近世 (俳諧文学)			
柚井吉子	リンガフォン・ランゲージ センター	比較文学 夏目漱石			
尹 炳 曽	成均館大学校教授・東京大 学客員研究員	近 代 文 学			

### 昭和53年度

国際日本文学研究集会委員

委員長 井 本 農 一 (聖心女子大学教授)

委員 池 田 重 (千葉大学教授)

# 臼 田 甚五郎 (国学院大学教授)

"ドナルド・キーン (コロンビア大学教授)

**》** 長谷川 泉 (学習院大学講師)

#### ※ 館内委員を除く。

なお、ダグラス、ミルズ氏 (ケンブリッジ大学教授) は国文学研究資料館客 員教授であった期間、館内委員であった。

> 発 行 昭和54年2月

編集兼発行者 国文学研究資料館 〒142 東京都品川区豊町 1 -16-10 電話 03 (785) 7131 (代)